富士市のユニバーサル就労をみんなで育てる情報紙

はたらく きずな

第2号
2017.11.25

「楽しく働く」 しきみの芽摘み

緑のしきみ畑で作業する「スマイルベリーファーム」の男性たち

富士市は全国有数のしきみ産地として知られています。大淵から今宮にかけては、茶畑としきみ畑が重なり合って豊かな緑を形成しています。ところがしきみ栽培には弱点があります。仏壇での見栄えよくロウソクの炎のようなふんわりした形に育てるには6～8月と10月下旬から11月にかけて芽摘みが欠かせないことです。芽摘みの人手は恒常的に不足し、まだまだ売れるのに栽培面積が増やせない、との農家の声も聞かれます。

そこで市農政課は生活支援課などと相談、ユニバーサル就労の一環として障害者施設などに働き手となる人たちがいないか呼びかけました。これに応じたのがＮＰＯ法人スマイルベリー（本部・浜松市）が市内大淵で農業中心に運営する障害者就労継続支援Ｂ型事業所「スマイルベリーファーム」（豊田由美施設長）。実際に体験したうえで仕事を引き受けることになりました。作業はしきみの芽が伸びすぎないよう、若芽をはさみで摘み取るだけですが、単調なだけに大変なところもあります。

農園主の芹澤幸寛さんは「お茶のように機械で摘むことができないので人手の確保が大変。年2回と時期が限定されるので、ハローワークでも派遣でもなかなか人手が確保できません。手間がかかる作業なのでありがたいです」と新たな助っ人に期待をかけます。

豊田さんは「ある時期だけ人手が欲しい農家にとって安定した雇用を確保するのは難しい。互いにウインウインの関係が築けそう」とこちらも意欲的です。

富士山がうっすらと顔を出す大淵の農場。働き手の男性は「（芽摘みの）仕事は集中できる黙々とやることが（自分には）合っている」と楽しそうにはさみを動かしていました。

市は「働きたい人が1人でも多く働けるよう、今後も柑橘や梨農家などと協力を進めたい」と話しています。

「市ユニバーサル就労推進協議会」発足

ユニバーサル就労の推進に向け発足した富士市ユニバーサル就労推進協議会初会合

富士市ユニバーサル就労推進協議会が10月下旬に発足しました。ユニバーサル就労に関連する市役所の部・課、ハローワークや商工会議所など公的機関、民生児童委員協議会や保護司会などの組織、障害者の自立支援をサポートする団体など19組織が参加して、互いの連携を強め、仕事を求める市民のためによりよい施策を追求していくことなどを話し合いました。

初会合では、各出席者の自己紹介やそれぞれの組織の仕事や就労に関する動きなどの説明の後、意見交換しました。全体をまとめると①富士市の景気は回復傾向で有効求人倍率も上昇し、ユニバーサル就労の導入に追い風が吹いている②障害者雇用は生産性の観点から赤字になる場合もあり、ユニバーサル就労でも中小企業では余裕がないことが多いことを念頭に置く必要がある③無償コミュニターは就労体験の延長として有用だが、なじみのない制度なので、メリットだけでなく難しい部分も十分な説明を行う必要があるーなどの意見が出されました。

協議会は審議会のように決議などはしませんが、会議に出された意見は福祉部生活支援課で事業・施策として検討していきます。その結果具体的に実施できるものについては、副市長が委員長を務める庁内組織に報告、さらに市議会の特別委員会にも報告して審議してもらいます。次回は年度末の2～3月に開く予定です。

協議会の構成メンバーは次の通り。

市福祉部、生活支援課、障害福祉課、商業労政課、社会教育課、富士公共職業安定所、富士労働基準監督署、富士商工会議所、富士市商工会、富士市民生委員児童委員協議会、富士地区保護司会、富士市社会福祉協議会、富士市シルバー人材センター、富士市障害者自立支援協議会(富士障害者就業・生活支援センターチャレンジ)、富士市生活困窮者自立相談支援事業受託者(富士市社会福祉協議会相談窓口)、富士市若者相談窓口運営事業受託者(NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡)、富士市ユニバーサル就労支援プロジェクト事業受託者(株式会社東海道シグマ)、同市民ネットワーク推進事業受託者(一般社団法人まちの遊民社)、同認定協力企業(富士センコー運輸株式会社)

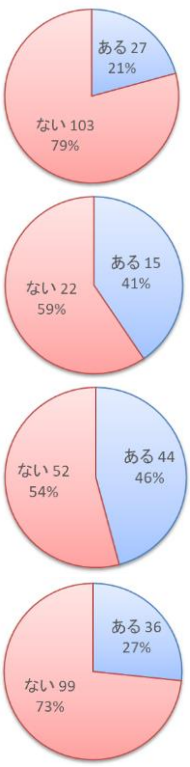
「ユニバーサル就労」の認知度まだまだ

富士市ユニバーサル就労広報室は市内のイベント会場で「ユニバーサル就労」の認知度に関するシールアンケートを実施しています。これまで4回の結果はグラフの通りですが、「ユニバーサル就労」という言葉を「知っている」人の割合が最も高かったのは福祉施策に関心の高い人が集まる「福祉まつり」の46%。一般の人が集まった「商工フェア」では27%と4人に1人超でした。

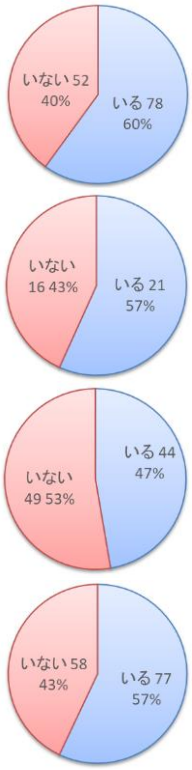
参加者の生の声も聴けました。「商工フェア」で回答してくれた若い女性層からは、「ユニバーサル就労」での「働く場」つくりよりも、託児所の増加など「働く環境」づくりをして欲しい、との声が聴かれました。「福祉まつり」に参加した70代の女性は、東北の大震災の後富士市に来て、今後永住する予定だということでしたが「年金だけでは心細い。かといってフルタイムで働くほど体力がない。比較的短い時間働けて生活費の足しになれば」と、ユニバーサル就労の考え方の普及に期待していました。

会場では「身近に働きたくても働いていない人はいますか」という質問もさせていただきました。結果はグラフの通りです。若い女性のなかには「自分自身の問題」と環境整備を訴える声がいくつかありました。

Q1.「ユニバーサル就労」という言葉を聞いたことがありますか？



Q2. 身近に働きたくても働いていない人はいますか？



視察と交流

富士市が行政として全国に先駆けて「ユニバーサル就労」の支援推進に取り組み始めたのを機に、全国から視察や交流に訪れる組織・団体が相次いでいます。「ユニバーサル就労」の“名付け親”である千葉県佐倉市の「社会福祉法人生活クラブ(風の村)」の池田徹理事長や、千葉県内を中心にユニバーサル就労を進めている企業・団体などに支援活動をしている特定非営利活動法人「ユニバーサル就労ネットワークちば」の平田智子副理事長など、先進地からの視察のほか、県内や北海道、長崎県、神奈川県などからも視察・交流に訪れ、富士市や市ユニバーサル就労支援センターの取り組みなどの説明を受けた後、同センターや実際の就労体験現場を見て意見交換などをしています。

富士市ユニバーサル就労支援センターで向笠センター長(右)らと意見交換する池田理事長(左)

「孝行家」を訪れた平田副理事長(右)ら

名付け親

池田理事長らが富士市を訪れたのは10月17日。協力企業説明会に出席しユニバーサル就労を始めた経緯などについて話しました。池田理事長によると、風の村がユニバーサル就労に取り組んだのはほぼ10年前、全国で初めて一法人としてスタートしました。福祉の仕事をしていながら、職場で障害がある人を支援してこなかったことに気付いたのがきっかけだった、と言います。

始めてみると即戦力とならない人を雇うことに、職員などからの反発もありました。しかしそうした人を受け入れて仕事をやってみると、専門的な仕事も「単純労働」と「専門労働」が組み合わされていることが分かってきたと言います。そこで単純労働をユニバーサル就労の人たちに任せると専門労働の職員の仕事が充実し、むしろ仕事の質が高まるようになったそうです。さらにそれぞれが助け合うことで、それまでギスギスしがちだった職場が優しい職場になる副次的な効果も生まれたと言います。

現在、池田理事長の運営する法人には1700人の職員が勤めていますが、うち60人がユニバーサル就労の職員とコミュニターや就労体験の人たちだということです。池田理事長は「何らかの支援をしないとだめな人も増えています。一方で福祉の現場では人手不足で黒字倒産も出ています。全国でも初めてユニバーサル就労に行政が取り組んでいる富士市には期待しています」と話していました。

富士市がうらやましい

平田副理事長らはNPO法人ファインケアが運営する市内鮫島の「小規模多機能　孝行家」と、市内依田橋の旭産業(株)を訪れました。ファインケアには傘下7施設に障害がある3人の方が勤めており、旭産業は従業員20人中男性が8人、うち健常者はフォークリフトを運転する1人だけという企業です。両方とも支援センターを通じてこの日から就労体験を始めた男性が、他の職員に交じって入所者たちの運動会をサポートしたり、一般社員に交じってトイレットペーパーの箱詰め作業を体験していました。周囲の人たちと笑顔で仕事するなど、受け入れ側の気配りで楽しそうな仕事ぶりでした。ファインケアの遠藤礼朗総務部課長は「不得意だからできないと決めつけないで、まず挑戦してみよう、とやっています」とユニバーサル就労に前向きな考えを強調していました。

平田副理事長に感想を聞くと開口一番「富士市はうらやましいかぎりです」と驚きの口調でした。というのも平田副理事長たちは初め民間の活動としてスタートしました。しかし、なかなか理解が得られず苦労したので、NPOに変更したということです。それに比べ富士市は行政も議会も協力的なので「うらやましい」ということでした。富士市役所にはユニバーサル就労の窓口があり、市役所で会った市議会議員も「市民が必要だと言っている」と前向きに話していたことに、平田副理事長は驚いていました。「企業開拓も丁寧ですね」と感心しきりでした。

支援センターから

富士市ユニバーサル就労支援センター
統括責任者
三好泰枝さん

ユニバーサル就労支援センターが誕生し、7か月がたちました。ユニバーサル就労という聞きなれない言葉とその仕組みを各関係機関の皆様に伝えること、そしてユニバーサル就労という働き方にご理解いただける協力企業様の開拓に奔走してきました。

支援対象者は「働きたくてもはたらきづらさを抱えたすべての富士市民」です。ユニバーサル就労をひとことで言うと支援付就労です。働きたくても働くことができない理由、それがその方の働きづらさなのです。ユニバーサル就労は、就労体験や雇用前段階の「コミュニター」期間を経て段階的に就労していく方法です（個人差有）。就職しても長続きしない、面接しても採用されない、就労したが人間関係の問題で会社を辞めその後、どう気持ちの整理をしていいかわからず立ち止まっている、コミュニケーションの取り方がわからず就労に不安がある、病気療養後働きたいが体力的な制限等で職場の配慮がなくては就労できない、高齢のためなかなか働ける職場がみつけられないなど、様々な働きづらさに対応致します。

また、企業説明会にも84社の企業様がご参加いただき42社の協力企業にご登録いただきました。市民の誰もが生きがいや働きがいを感じることのできる環境づくりをしていくことが私たちセンターの使命です。

おとなまつりでPR

「富士の麓deおとなまつり」が11月12日、富士市交流プラザで開かれました。「おとなまつり」はセカンドライフの充実を目的に発足した「まちの遊民社」が、発足当初から企画運営しているイベントで、遊民社の原点ともいえるイベントです。今年は新たにユニバーサル就労の広報という仕事も加わり、来場者に「誰もが働けるまちづくり」を考えてもらえるようPRしました。

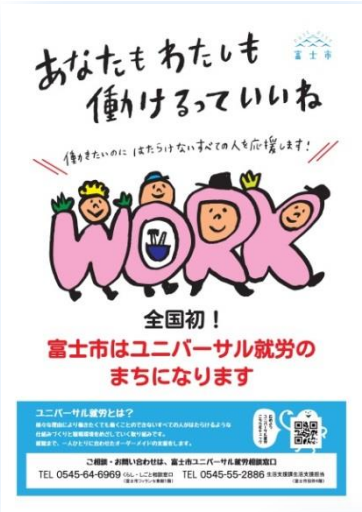
シールアンケートなども実施したおとなまつり

シールアンケートには150人余りが協力してくれましたが、「ユニバーサル就労」という言葉を知っている人は55%、「身近に働きたいのに働いていない人がいる」という人は45%でした。ただ「ユニバーサル就労」という言葉を知らない人でも、誰もが働ける富士市にしたいーという行政や議会の動きには賛成の人が多く、「市民の間にもっと知ってもらえるよう協力するよ」などという声も聞かれました。

「おとなまつり」の参加者は他のイベント参加者に比べ、「ユニバーサル就労」という言葉を比較的知らず、「働きたいのに働いていない人」が身近に「いない」という人の方が多かったという結果でしたが、年配者の「働きたい」という意欲には変わりありません。参加者は元気な人が多かったので「働く意欲」があれば自分で仕事を探すという自立心も旺盛なようでした。

ユニバーサル就労広報室

ユニバーサル就労のポスター・チラシ



掲示・配架にご協力くださる方を募集しています。ユニバーサル就労広報室までご連絡ください。

ユニバーサル就労広報室
054５-３２-７００９

市民からの投稿

家庭と仕事の両立をしたい主婦でも、正社員として安心して働ける職場を増やして欲しいと思います。資格を取れるような場も設けてほしいと思います。

（40歳代主婦・平垣）

読者の意見・提案募集！

富士市ユニバーサル就労広報室は、読者のご意見やご提案を募集しています。

〒416-8558　富士市本市場432-1フィランセ東館1F
富士市ユニバーサル就労広報室
FAX：0545-32-7009　Email：f-uw@machi-yumin.com

サポーター募集！～富士市のみんなでユニバーサル就労を育てましょう～

ユニバーサル就労サポーターに登録された方には、定期的にメールマガジンなどを通して情報提供をしています。
月1回程度のメルマガ最新情報、年4回の情報紙をお届けします。　登録料　年会費　無料
口コミやシェアなど様々な方法でユニバーサル就労の広報・周知にご協力をお願い致します。

【サポーター申込み方法】
ＨＰの登録フォームに記入送信してください。
ＨＰ：http://f-uw.com
また「ユニバーサル就労サポーター募集リーフレット」に申込書が添付されています。ご希望の方に郵送いたします。

Webでも
登録できます

富士市の有効求人倍率（10月31日 ハローワーク富士）

平成29年9月の有効求人倍率は1.54倍となり平成4年3月以来25年6カ月ぶりに1.5倍台となりました。